

粘弾性特性比較検討WG 報告

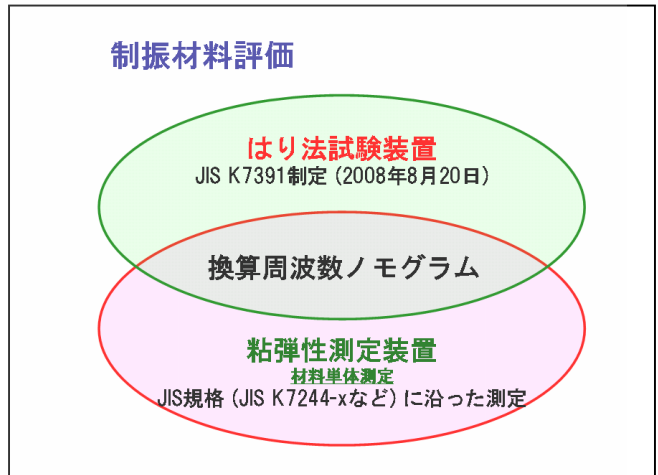
古河電気工業(株)
高橋 里佳

粘弾性特性比較検討WG 報告

SDT

古河電気工業(株)

高橋 里佳
2010年8月4日



JISK7391と粘弾性測定装置による比較試験—その1

SDT

試験材料

	材料 (a)	材料 (b)
ベース材	ポリエステル	アスファルト+充填材 (炭酸カルシウム等)
厚さ	1.0 mm (JIS法) 0.5 mm (粘弾性)	1.2 mm
tan δピーク温度	30°C 付近	-10°C 付近
基準温度	10°C	-30°C

JIS K7391による粘弾性特性評価

	A社	B社	C社
測定方法	片持ちはり法	片持ちはり法 and/or 中央加振法	中央加振法
試料寸法	幅 10 mm 片持ちはり法の有効長 220mm, 中央加振法の有効長 250mm		
基材	JARI SPCC 1mm厚		
基材との 接着方法	市販の瞬間接着剤		
温度	-20°C~90°C		
温度スパン	10°C		
その他	-	可能であれば 振幅依存性測 定	

粘弾性測定装置による粘弾性特性評価

	D社	E社	F, G社
測定モード	引張試験		
試料寸法	幅 5 mm 有効長 20mm		
振幅	20 mm		
周波数	10 Hz (n=2) Max (~110 Hz)	Max (~10Hz)	Max (~999Hz)
温度	30°C~100°C		
昇温速度	3°C/min		
温度スパン	1分おき		
その他	実測時のプリテンションの数値を読み取り、記録 (材料・大きさ・厚さに依存するため)		

